

図書館とデジタル・プリザーベーション: その後

竹内比呂也

(千葉大学文学部, 附属図書館長, アカデミック・リンク・センター長)

アウトライン

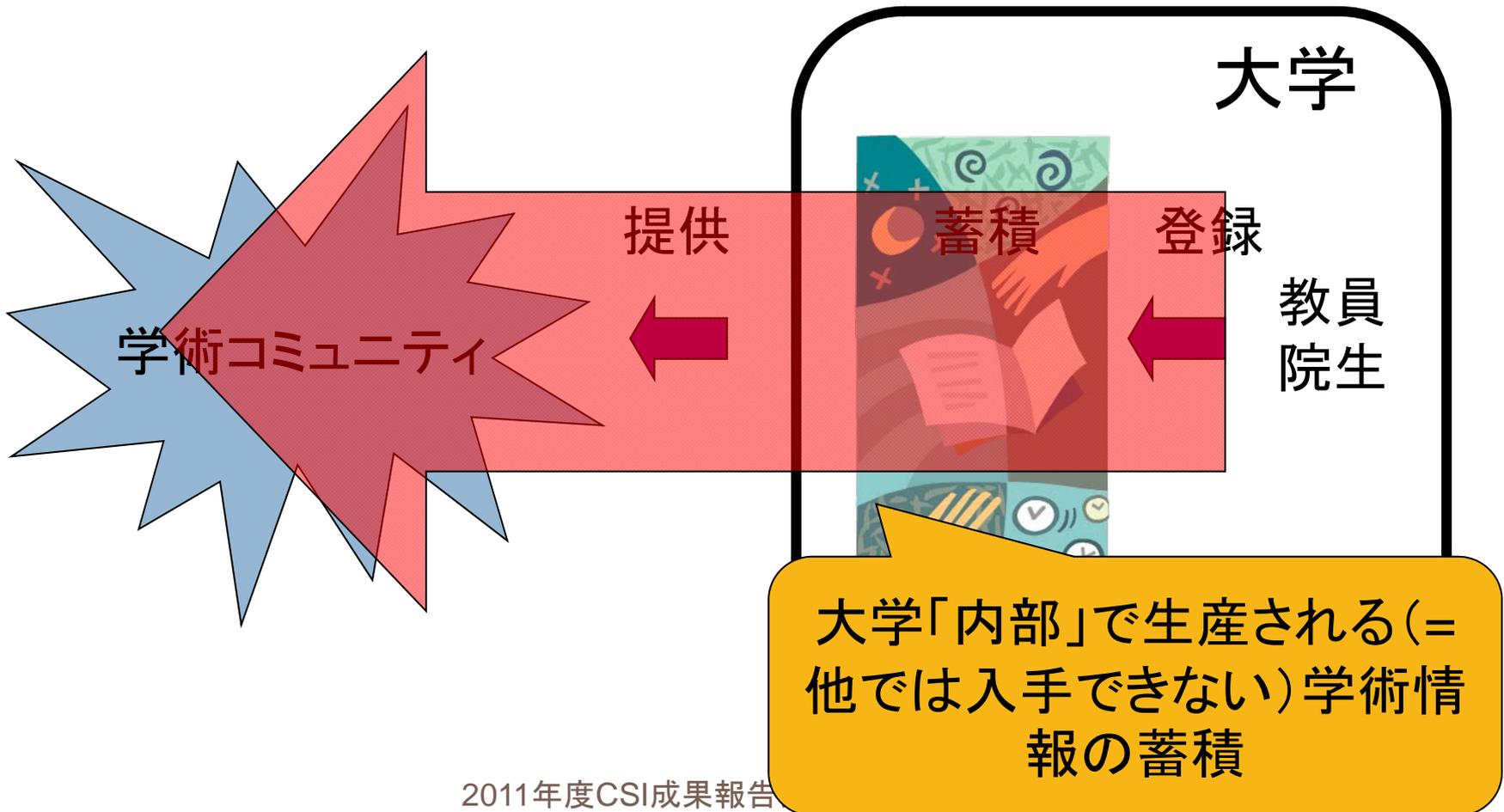
- 背景
- プリザーベーションの必要性
- 東日本大震災のような場合に対応できるのか？
- プリザーベーションとクラウド

背景

- 2005年9月に「機関リポジトリとデジタル・プリザベーション」というタイトルで千葉大学の機関リポジトリ公開記念シンポジウムで発表
 - 「機関リポジトリによって大学は説明責任を果たしうる」ことを力説
 - デジタル・プリザベーションの必要性を主張
 - 「機関リポジトリこそデジタル・プリザベーションの基盤」と主張

「機関リポジトリ」モデル

「大学から学外への情報発信の窓口」



機関リポジトリとプリザーベーション

- 「情報発信」を安定的に行うためには、その基盤として「蓄積」が必要
- 例えば教員個人ではなく「機関」がこれをすることの意義は、
 - 「永続性」の保証>>プリザーベーション(保存)
 - 「安定的」なアクセスの実現
 - メタデータ等の「付加価値」

リポジトリとプリザーベーションは表裏一体

デジタル・プリザーベーション

- 紙媒体の資料を残すよりも厄介
 - 「媒体の保存」＝「記録されている情報の保存」とは言えない。
 - 記録されている情報内容がちゃんと残っていたとしても再生できなければ意味がない。
 - 紙の資料のように「偶然残る」ことにはあまり期待ができない。

デジタル・プリザーベーション

- 何をしなければならないか？
 - プリザーベーション計画の策定（「あとからやれば良い」では遅すぎる可能性がある）
 - エミュレーション／マイグレーションなど技術の適用
 - 保存履歴の作成，それを可能にするメタデータスキーム（例えばPREMISなど）の必要性

現時点での問題

- 多くの機関が「保存」についての方針を持っていない
- 決定的な技術がない
- 経費、人的資源

コーネル大学図書館の例

- 図書館がUniversity Archives(大学文書館)としての機能を果たす
- *Cornell University Library Digital Preservation Policy Framework(2004)*
- “Mandate”
 - Scholarship
 - Institutional records
 - Legal obligation
 - Organizational commitment
 - Consortial and contractual obligations
- しかしながら, この業務を行っていたDigital Preservation Officerのポストはすでに廃止されている。

東日本大震災とその後の計画停電の影響

- 停電に伴うサーバダウン
- 計画停電実施に伴うサーバ電源の頻繁なON/OFFにサーバが耐えられず、図書館のwebサービスの一時休止
- 停電中は当然ネットワークも休止
- ✓ サーバ自体に問題がなくてもサービスはできない
- ✓ 単にデータが保存されているだけでは何の対応にもならず。→今回の大災害のような場合、何をどこまでできるようにしておくかということについてあらかじめきめておくことが必要。

プリザーベーションとクラウド

- すでに機関リポジトリを設置している組織にとって、
- 各大学の機関リポジトリのミラーサイトを設置するためのサービスか？
 - バックアップコピーをおいておくためのサービスか？
 - プリザーベーションのための環境を提供するサービスなのか？
 - それとも？？？